

Title	もしほ草 江湖新聞(小野秀雄校訂, 明治文化研究會版)
Sub Title	
Author	今宮, 新(Imamiya, Shin)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.2 (1927. 5) ,p.158(310)- 159(311)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0158">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19270500-0158</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

演の内容に觸れたものとしては殆どなかつた。例へばスピリット・オブ・ゼ・エーザの検討は一般歴史の研究に必要なことであつて、十六七世紀の時代精神はセークスピアの脚本を通じて見らるべく、現代のそれはイフ・キンター、カマス（其頃ん盛に持離されて居つたハツチンソン）の中にも見られるのである。故に外交政策の問題を取扱ふに當つても、單なる事實の経過を説くに止めないで、其時代の文藝を通じて時代精神を知り、それが外交政策の上に如何に働いてゐるかを考案するの要があらう杯といふ意見を、アイ・ウキル・サツゼスト・ユウ杯と冒頭して、さも得意氣に語り出すのであつた。テ氏は答辯は皆の濟んだ後ですると言はれ乍ら、始終笑を含んで聞いて居られたが一巡言はせて置いて、夫丈かと確めた上、起つて滔々と懸河の辯をふるはれ、セークスピアの偉大を認めるのは、自分も敢て諸君に譲らないが、さりとてセークスピアを知られば、外交が談ぜられぬといふ道理が何處にある、と言つた調子が温顔に微笑を湛へ乍ら、尾々として説き去り説き來り、彼等の議論を完膚なき迄に辯駁されて、一同を首肯させられた」云々。ハツチンソン云々は少し極端とするも、彼の地の學生間に文化史的研究熱の勃興してゐることが明かに首肯される。

「ムツソリニー氏と語る」「スパイ」「書肆」「國民的信仰」等も極めて興味ある記事である。

尙本書には多くの有益なる圖版を收め、錦上更に花を添ふるの觀がある。

要するに本書は尋常一樣の見聞録と全く其の撰を異にし、われらは隨所に博士の卓見と蘊蓄とを感知し得る。博士に深く敬意を

表すると同時に、史學に志す者、歐米に遊學せんとする者、及び學校當事者に本書の一讀を切に薦む。(宮島貞亮)

### もしほ草 江湖新聞

(小野秀雄校訂)  
明治文化研究會版

明治時代の研究が、近來段々と、盛になりつゝあることは喜ぶべき事である。この時代の史料は、得易い様に思はるゝが、案外手に入り難いものが多いのである。特に、明治初期の新聞について、我々は、この感を深くするのである。即ち、小野氏が、この序文に於て言はれてゐる如く、新聞紙は散逸し易いので、これを蒐集することは、容易でなく、號を揃へんとすれば、幾度か重複號を、買はなければならぬので、その努力と失費は、非常なものである。又新聞紙が史料として、貴ばれることとなると、従來紙屑同様であつたものの市價が、急に昂騰し、書籍の數倍の賣價となり、五六十年以前の新聞が、珍本の如き觀を呈するのであつて、我々は、この爲に、その研究を防げらるゝばかりではなく、又一部の商人の犠牲とさへなるのである。此等の不便を除く爲に、明治文化研究會が、先づ第一に、この兩新聞を、複製された事は大に感謝しなければならぬ。

もしほ草と、江湖新聞は、共に慶應四年、横濱及び江戸で、創刊されたものである。勿論日刊ではなく、三日又は五日目位に、發行されたもので、その内容には論説あり、ニュースあり、廣告あり、不完全ではあるが、現代の新聞の内容を具備してゐた。然し共に關東の佐幕的輿論に、投合せんとするもので、京都、大阪に

現れた勤王主義を標榜するものとは、全く反對の傾向を有するものである。

もしほ草は、横濱に居た米人ヴェンリートの主宰する所で、岸田吟香後に栗田万次郎が編輯したものである。維新紛亂に際して、この新聞が内亂に乗ぜんとする外國の勢力の恐るべき事を、論評し、漫畫を加へて國民に警告してゐることは注意すべき事である。内亂平定後は、新知識の輸入、風俗の改良、鐵道電信の敷設等に力を用ひてゐる様である。ニウスの内容の確實性については如何はしいものが多い。特に維新紛亂の戰報には、岸田が關東の人氣に投ずる爲に幕府方の勝利を捏造したものがあつた。

江湖新聞は、福地源一郎が主宰し、西田傳助、條野傳平、廣岡幸助等も協力經營したものである。福地は二度も歐米の風物に接し、殊に新聞の自由な評論を見て、其の實現を夢想したのである。彼は江湖新聞を通じて、新政府建設の政體を論じ、先づ專制政治を樹立し、次で憲政に向ふべきであることを論じてゐる。もしほ草の獨乙式聯邦政治論に對し、英國式の憲法政治を主張したのである。然し他の新聞と同様に、徳川氏の衰微に對して、薩長諸藩に反感を有し、幕府方に關する事は一々これを辯護し、官軍の殘虐を攻撃する點に於ては當時發行された新聞中、最も過激な筆を弄した。この爲に彼は官軍が江戸に侵入するに及んで、糺問所に拉致され、發行を禁止されて、版木をも沒收されるに至つた。然しながら當時これだけの卓見を有するものは、まれであつたのである。江湖新聞の價値は、其論文時評にあるが、又ニウスも特色がある。即ち徳川家に集る公文書と、俳優に關する記事が多いこ

とである。

本書の最初に附してある小野秀雄氏の解説は、非常に有益なものである。即ち、先づ兩新聞の概説をなし、次に、もしほ草については、その内容の價値、ヴェンリートの傳、岸田ともしほ草の關係、表紙の變遷と體裁について述べ、江湖新聞については、福地源一郎のこと、この新聞の内容及び其他について、記されてゐる。新聞の史新的價値については、序の中に詳細に論ぜられ、主宰者の理想、時代思想との關係、公衆との關係を明瞭にし、これを基礎として、新聞紙を利用しなければならぬ。唯何新聞に何々の記事ありとの理由で、これを史的事實となし、又は何々の説ありとの理由で、時代の輿論と見るは、大なる錯誤を惹起するものである、と言はれてゐるのは、我々新聞紙を利用する者にとつて、見のがすべからざるものである。氏がこの兩新聞を複製するにあたり、假名遣の誤りや、誤字、外國語の發音の誤謬等をそのまゝ組み込み、又、原書の頁數を示されて、出来るだけ、原書の趣を失はない様にされた事や、上欄を加へられて、精密索引を附されたことは、實に我々にとつて有り難いことであり、氏の勞力に大に謝さなければならぬ所である。更に、本書には、もしほ草の表紙、表紙の變遷、江湖新聞の表紙、ヴェンリートの肖像、横濱開港見聞誌より取りたるもの、岸田吟香の肖像、(新聞錦繪より取りたるもの)、福地源一郎の寫眞等數葉の寫眞版が加へられてゐるので、我々は原書を實際見る様な氣がするのである。最後にかくの如き丁寧且用意周到な複製が益々多く出版されることを希望して止まない次第である。(今宮新)